

宇佐市民図書館 2004.02

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
<http://www.usa-public-library.jp/>



- 次
 ◆ 麻生豊「口上」より(3)
 ◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(21)
 ◆ 新着郷土資料目録・平成十六(二〇〇四)年【1月】

4 2 1 1

今月の表紙 麻生豊の長編漫画『只野凡児・人生勉強』の第3巻(全3巻のうち)表紙。昭和9年8月7日発行。新潮社。箱入り。18×19cm。94ページ。「会社員の巻」、「トウサン入来の巻」、「レビューの巻」、「スポーツの巻」、「見合の巻」の五編を収録。

その日その日を育ててゆくのは私の役目にして、
 ノンキナトウサンにした
 処で私の居た新聞紙の編
 輯長であった高田知一郎氏
 がトウサンの取上婆さんを
 やつてくださった。

只野凡児(第一巻)
 昭和九年二月・新潮社発行

口上 (3)
 麻生 豊

ノンキナトウサンにした
 処で私の居た新聞紙の編
 輯長であった高田知一郎氏
 がトウサンの取上婆さんを
 やつてくださった。

この機会に凡児にな
 くなつては所詮凡児を満足
 に育てるとは及びもつか
 ない。この機会に凡児にな
 り代り育ての親から生みの
 親へ厚くお礼を申上る次第
 である。

(明治)——公熙
(文政)——公蝦——(嘉永)——公誼
(享保)——公古——(寛延)——公説
(元永中)——公村——(承応)
かく(夜鶴著者)
待徒(公著ノ母)
(天文中)——公憲——公吉——公兼
(応永中)——公増——公兼——公弘
(享徳)——公正——公治——公澄
公連——公規——(至徳中)——公貞

到津家系

同三年、神事祭会式八巻を編し、
享徳二年、宇佐宮司に任せらる。

公古は元文八年生まれ。享和二年、京都寓居で歿し、六十六歳鳥部

いとうづ・きみひろ 到津公誼

歳で歿した。

いとうづ・きみひろ 到津公弘

八歳。

(大典)

パックナンバーは、
郷土スペース(雑誌架)に
ファイルしています。
ご希望のかたには、
中央カウンター(そだん)で
さしあげます。

宇佐宮司公古の長男。幼名勝丸。四歳家を嗣ぎ、安政二年大宮司となる。元治元年甲子、奉幣使の参向につき大典を勤め、從四位に叙し、明治五年五月、始て華族に礼遇され、同十七年男爵を授けらる。其前後、公共の事に尽瘁し、賞勲局より数々褒状及物品を下賜された。性来、多能にして和歌に長じ、謡曲を嗜み、殊に神能復興に功績があつた。其神幸に供奉するや、参詣人、生ける神の如く拍手して拝んでいた。容儀秀麗、徳操高く、人の敬重されていた。明治三十四年、六十五歳で歿した。

いとうづ・きみのぶ 到津公誼

又、応仁元年七月、御宝物殿御剣目録を編輯した。(大塚)

いとうづ・きみひろ 到津公熙
(一八六九~一九三六)

神職。明治二年宇佐町に生まる。公誼の長男。旧名松千代。家祖宇佐津彦命。世々宇佐神宮の宮司。明治十四年、從五位に叙す。三十四年、男爵を襲ぎ、官幣大社宇佐神宮官司に補せらる。大正五年、顧により免ぜられ、同八年三月、宇佐町名誉町長となり、九月、退職、更に官司拝命、昭和四年正三位に叙せられ、六年休業。十一年八月歿す。六十

山に葬る。室は菅原氏。其子公説(公悦)嗣ぐ。寛延二年、大宮司となり、中絶大宮司勅任の例を復興し、公通の例により、寛政十一年、從三位に叙せられ榮進を極め、宝暦九年、新嘗会復興した。公安と共に谷川士清に学んだ。

(宇佐史談)

龍膽・小野精一編

大分県人名辞典

本文編(21)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。

収録人名一覧は、No.7(2000.10)~No.14(2002.5)に連載しました。

いとうづ・かく 到津かく

宇佐大宮司公兼の長女。宮成家より公村を迎へ、婿養子とした。公村との間に一男公峯と二女とがあった。其二女の嫁するに当たり、誠めとして夜の鶴という一書を書きて与えた。かく女史の妹侍従とて杵築に嫁せし人頗る能筆とて清記して二女に与えたのであるが、服蘭室が序文を書き、台の石文など婦女訓を副えて一巻となし、広く伝わる。自序に、上るべき雲路如何と鶴の子の

巣立ち離れん行衛そ思ふ
と母性愛を述べてある。第二章の「親に孝行」の中に、
子は親に似たるものだと聞からに
恋しき時は鏡をそ見る
など、歌など挿入した。大和文の手

いとうづ・きみあき 到津公著

(宇佐史)

本になる名文である。元禄頃の人。

(宇佐史)

宇佐大宮司六十七代。天和二年、杵築に生まれ(稻見玄益の子)、元禄十四年二十一歳、公峯の養子となり、翌年大宮司となつた。然るに皇室式微と共に宇佐奉幣の中絶

四百年に及ぶ、猶社殿は荒廃を極めていたので、宝永七年、素願を達せねば郷土を踏まぬという大決心で東上したが、要を得ず、空しく命を待つ七年、然も帰宮して命を待てとの沙汰に遭い、一旦還郷し、復た命を待つ数年、恰も享保八年四月十八日、八幡宮回禄の災に罹つたが、公著直ちに上京し、奏聞に及び、廢朝三日、更に江府に出て、寺社奉行黒田豊前守により、十年來の素願を達し、享保十五年帰宮し、日夜精励、

工事を督する十二年、殿宇三十五棟、寛保二年竣工した。其八月、勅使飛鳥井左中将下向あり、神宝の御奉納があつた。後伏見天皇正安三年より四百四十年にして廃典復興が出来た。全く公著の神忠の賜である。宝暦六年、七十四歳で歿した。

いとうづ・きんづら 到津公連

宇佐大宮司到津家始祖。大宮司五郎と称す。康永の代、出で企救郡到津邑の地頭職を兼ぬ。仍て其地名を採つて氏とし、宮城家と交も交も大宮司に任せらる。公連も入つて大宮司に補せられた。生没年不詳。其

到津八幡は国志によれば文治四年の勅請とあり、現に県社であつた。到津は古く板櫃イタツとあつたのを到津イタツとなつとなつたと見ゆ。

いとうづ・きみひろ 到津公誼

(宇佐史)

御奉納があつた。後伏見天皇正安三年より四百四十年にして廃典復興が出来た。全く公著の神忠の賜である。宝暦六年、七十四歳で歿した。

宇佐大宮司到津家始祖。大宮司五郎と称す。康永の代、出で企救郡到津邑の地頭職を兼ぬ。仍て其地名を採つて氏とし、宮城家と交も交も大宮司に任せらる。公連も入つて大宮司に補せられた。生没年不詳。其

到津八幡は国志によれば文治四年の勅請とあり、現に県社であつた。到津は古く板櫃イタツとあつたのを到津イタツとなつとなつたと見ゆ。

新着郷土資料目録 平成16(2004)年【1月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

- 別府大学 司書・司書補講習生文集／別府大学司書講習／2003/A010⁺／(寄贈)
 白杵市読書感想文コンクール入選作品集 平成15年度 第28回
 　／白杵市立白杵図書館／2003.12/A019ウ／(寄贈)
 子ども文庫・読み聞かせグループ交流会名簿／大分県立図書館／2003/A019オ／(寄贈)
 入選作品集 平成15年度読書感想文コンクール／豊後高田市立図書館／2003/A019フ／(寄贈)
 蓮如上人五百回遠忌法要 本堂修復慶讃法要記念誌
 　／宇佐:本願寺四日市別院／2003/A185ホ／(寄贈)
 卑弥呼／富来隆／学生社／1970/A202ト／(寄贈)
 古代朝鮮文化を考える 第13号／大分県の中の古代朝鮮文化を考える会／1998/A203オ／(寄贈)
 古代朝鮮文化を考える 第16号／大分県の中の古代朝鮮文化を考える会／2001/A203オ／(寄贈)
 古代朝鮮文化を考える 第18号／大分県の中の古代朝鮮文化を考える会／2003/A203オ／(寄贈)
 大友水軍／大分県立先哲史料館／2003.10/A204オ／(寄贈)
 一燈照隅／「豊田良平先生を偲ぶ誌」編集委員会／2003.10/A289ト／(寄贈)
 洋さんのあっちこち／宮園洋／れんが書房新社／2003/A289ミ／(寄贈)
 花、色、とりどり 大分花景色／井上裕子／おおいたインフォメーションハウス／2004/A290オ／(購入)
 回想・平松県政四半世紀／大分合同新聞編集局／2004.1/A317.2オ／(寄贈)
 一身にして二生／平松守彦／新潮社／1993/A318ヒ／(寄贈)
 新市建設計画／宇佐両院地地域町村合併協議会／2003/A318.1／(寄贈)
 業務報告書 宇佐市 昭和43・44年度[ファイル入り]／宇佐市／1968・69/A318.1ウ／(寄贈)
 業務報告書 宇佐市 昭和45・46年度[ファイル入り]／宇佐市／1970・71/A318.1ウ／(寄贈)
 業務報告書 宇佐市 昭和48・49年度[ファイル入り]／宇佐市／19723・74/A318.1ウ／(寄贈)
 統計でみる日本2004／日本統計協会／2003/A351／(寄贈)
 空母機動部隊／牧野洋／新人物往来社／2004.1/A390⁺／(寄贈)
 大分県内の専門医41人がお答えしている本。／ハヌマン
 　／おおいたインフォメーションハウス／2003/A490オ／(購入)
 ル・トロネ修道院／磯崎新／六輝社／2004/A520イ／(購入)
 建築士大分 2004.1 No.89／大分県建築士会／2004/A521オ／(寄贈)
 日本の航空母艦パーフェクトガイド／学習研究社／2003/A550レ／(寄贈)
 目で見るアグリランギング／大分統計・情報センター／大分農林統計協会／2003/A611.8オ／(購入)
 大分弁語録解説／おおいたインフォメーションハウス／1996/A818ケ／(寄贈)
 御許山の旗／松林史郎／葦書房／1987/A913マ／(寄贈)
 銀色のノート／上田忠敏／宇佐:上田忠敏／1990/A914ウ／(保管転換・複本)
 日本近代文学 第69集／日本近代文学会／2003/A905Y03／(寄贈)